

「食育の計画」作成ワークシート記入結果からみた 幼稚園・保育園の食育の実態と課題

久野 一恵¹, 真名子香織², 荒尾 恵介³, 久野 建夫⁴

The Status and Problems of Nutrition Education in Kindergarten or Nursery School Analyzed the Worksheet for Nutrition Education Plan

Kazue KUNO, Kaori MANAKO, Keisuke ARAO, Tateo KUNO

要 旨

佐賀県内の幼稚園・保育園の食育の実態と課題について、食育の計画作成マニュアルの回答から分析した。もっともよく取り組まれている食育はクッキングや栽培活動などの参加型学習と、箸の持ち方などのマナーに関する事であった。最も困っているのは、食べ方のマナーに関する事で、ついで保護者との連携であった。これらの解決のためには、保護者への働きかけや園内での工夫が必要であると認識していた。新しい取り組みとしては、まだ取り組んでいない参加型の活動が多く挙げられた。これらの活動を通して、食や命に感謝し、マナーを身につけ、みんなと楽しく食事ができ、それらによって健康で元気な子どもになって欲しいと期待していることが明らかになった。

1. はじめに

平成17年6月17日食育基本法が成立し、平成18年3月31日に食育推進基本計画が決定された。食育推進基本計画の中で、学校では食の指導に関わる全体的な計画の策定を、保育所には「食育の計画」を策定するように求めている。佐賀県では、県内の幼保施設の食育の計画策定の助けになるように、平成19年3月「食育の計画作成マニュアル」を作成した¹⁾。食育が広い概念であり、定義や内容などが多種多様であるため、計画策定においては園内で十分に話し合い、そのことによって連携、協力をする事が欠かせない。連携、協力のためには共通の目標を確認することが必要である。これらを達成するために、マニュアルでは、ワークシート形式を採用し、各施設で話し合うきっかけになるようにした。ワークシートは、①みんなで話し合うこと、②今やっていることを見直すこと、③目指す子どものそだちを明確にすることを目指して、質問①「現在行っている食育の取組を書き出しましょう。」質問②「子どもの姿を思い出してください。」質問③「食育に取り組みながら、困っていることはありますか？」質問③-1「困っていることは、どの

¹ 西九州大学 健康福祉学部 健康栄養学科

² 〃

³ 〃

⁴ 佐賀大学 文化教育学部 教育学・教育心理学講座

ようにすれば解決しますか。」質問④「新しくやってみたい取り組みを書いてください。」質問⑤「子どものどんな育ちを期待しているのか考えてみましょう。」の6問で構成した。

本論文では、6つの質問に対する回答を分析して幼稚園、保育園における食育の実態と課題について明確にすることを目指した。

2. 方 法

1) 解析対象

平成19年5月、佐賀県内の幼稚園保育園に勤務する258名を対象に実施したマニュアルの説明会終了時に提出されたワークシート167名分を解析対象とした。提出した職種は、栄養士、保育士、幼稚園教諭、事務員であった。

2) 解析方法

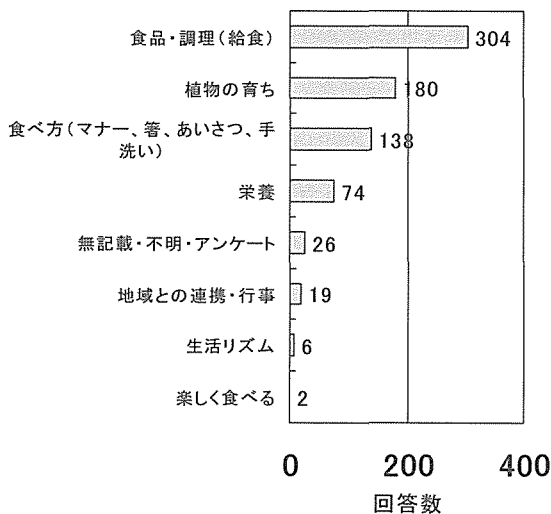
提出されたワークシートの文章のコーディングを行った後、文章に含まれるキーワードをKJ法によりカテゴリー化を行った。同じ人が複数回答をしているので、総数は167にはならない。カテゴリー化はマニュアルの作成に関わった管理栄養士2名と栄養教育を専門とする大学教員1名の計3名で行った。

3. 結 果

1) 現在行っている食育の取り組み内容 (図1)

取り組まれている食育を、内容による分類と、方法による分類を行った。内容では、給食を通じた食品や調理に関することを教える、野菜の栽培などの食物の育ちを教えるなどが多く、方法では栽培や収穫活動、調理実習(クッキング)などの、体験型の取り組みが多くみられたが、給食時の食べ方指導などしつけに関する取り組みも多くなされていた。

【内容による分類】



【方法による分類】

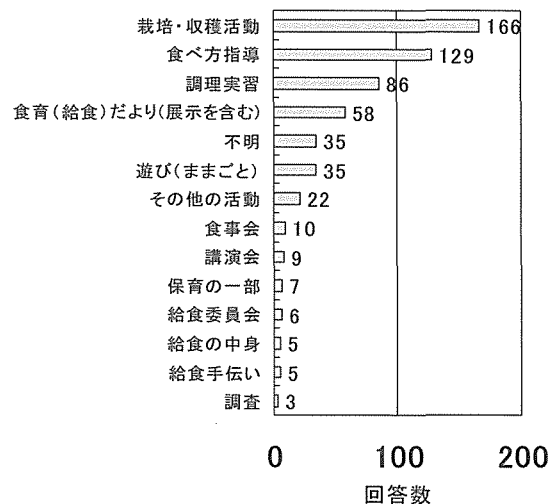


図1 現在行っている食育の取り組み内容

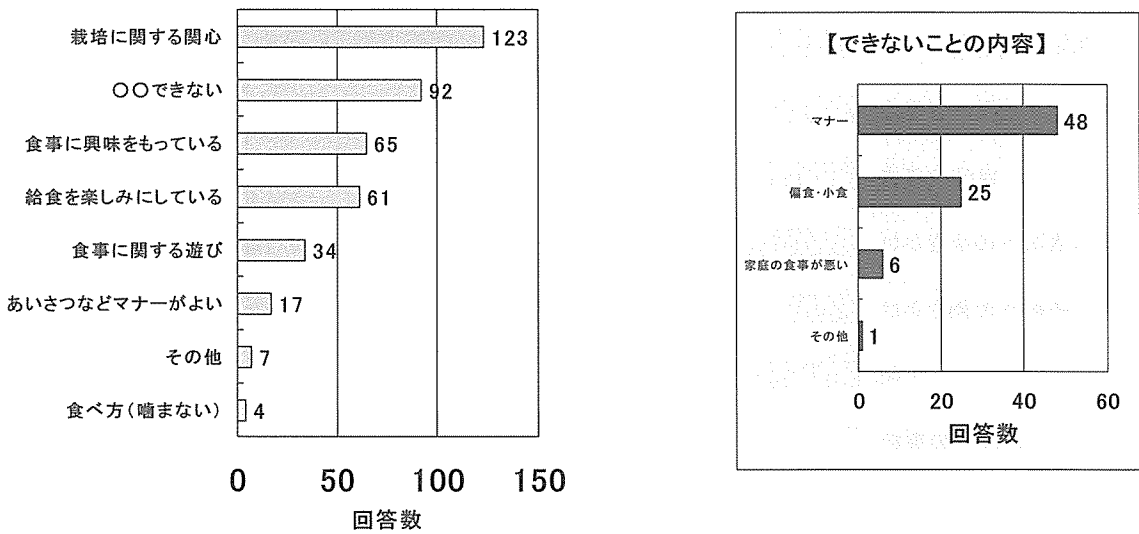


図2 子どもの姿

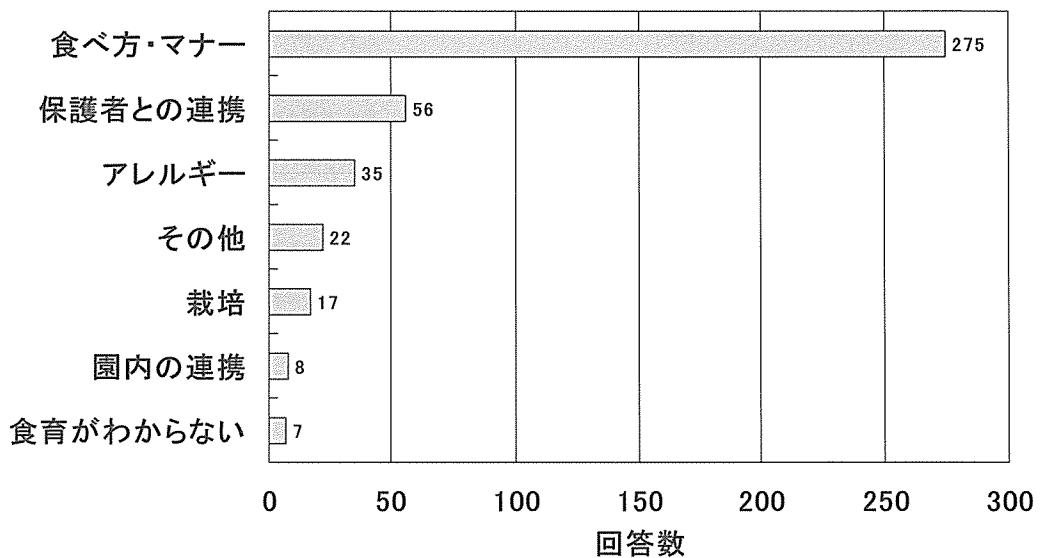


図3 困っている事

2) 子どもの姿 (図2)

思い浮かべた子どもの姿は、植物の育ちに興味を持っている、食事に興味を持っている、給食を楽しみにしているなどの「子どもの興味」に関する事と、「〇〇できない」という課題提案とに大別された。できない事の中では、マナーに関する事が最も多く、次いで偏食や小食に関する事であった。

3) 困っている事 (図3)

困っている事はなんですかと尋ねたところ、もっとも多かったのは食べる時間がかかる、箸の持ち方が悪い、姿勢が悪いなどマナーに関する事と、アレルギーへの対応を合わせた「食べ方マナー」で、

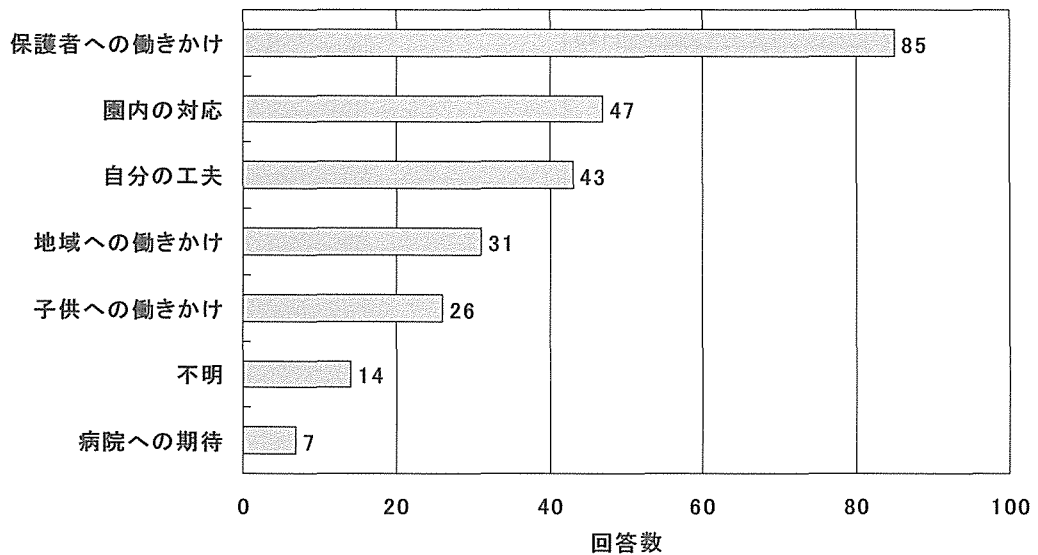
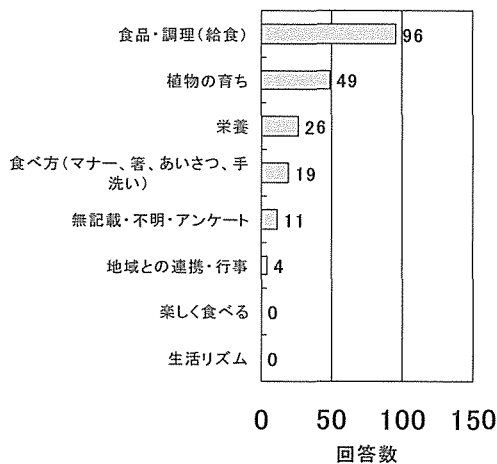


図4 困っている事の解決策

【内容による分類】



【方法による分類】

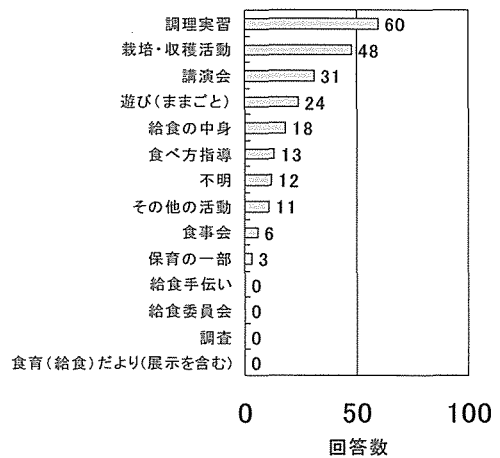


図5 新しくやってみたい取り組み

次いで、保護者との連携に困ることが多いとの記載が多かった。

4) 困っている事の解決策 (図4)

幼稚園、保育園の事情はさまざまであるので、困りごとの解決策も園独自であると考えられる。そこで、つづいて「どのようにすれば解決しますか」と尋ねたところ、「保護者への働きかけ」や「園内での対応」など、自分たちで解決の方法を模索する必要があるとの認識があった。

5) 新しくやってみたい取り組み (図5)

新しくやってみたい取り組みを尋ねたところ、これまで植物の育ちなどの栽培活動を中心に行っているところは調理実習を、調理実習をやっていたところは栽培活動をやりたいという意見が多く見られ

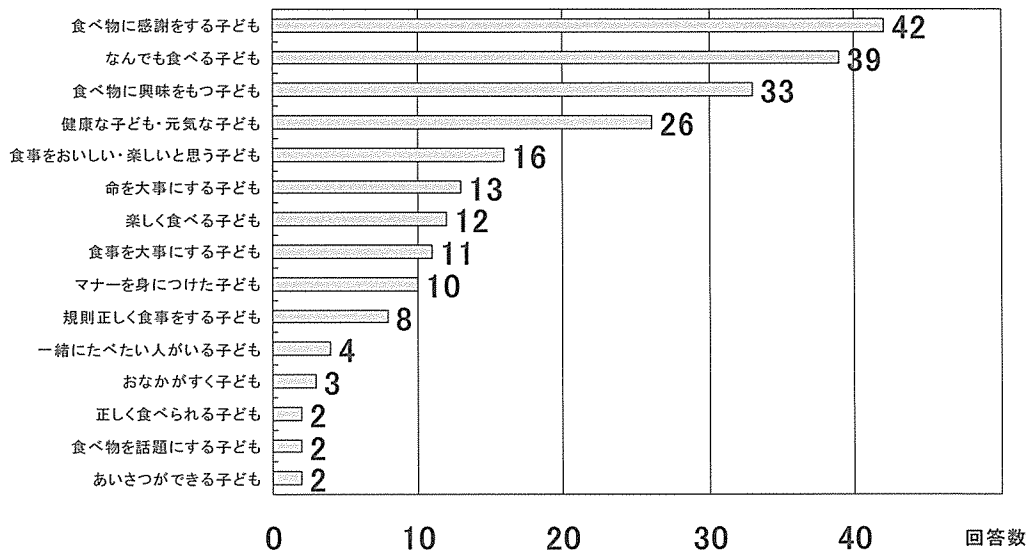


図6 どんな子どもの育ちを期待しているのか。

た。

6) 期待している子どもの姿 (図6)

最後に、食育を通じてどんな子どもの育ちを期待しているのか尋ねたところ、「食べ物に感謝する子ども」「命を大事にする子ども」という食べ物への関心に関する事項と、「なんでも食べる子ども」「マナーを身につけた子ども」「規則正しく食事をする子ども」「あいさつができる子ども」など子どもの行動や生活習慣に関する事項と、「食事をおいしい、楽しいと思う子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食べ物を話題にする子ども」など食事という行動に関する周りの反応に関する項目がみられた。そして、その結果として「健康で元気な子ども」になって欲しいと期待していた。

4. 考 察

平成19年当時でもほとんどの園で、なんらかの食育が実施されていることが明らかになった。その内容は、クッキングや栽培活動などのイベント型と、食べ方指導などのしつけとに大きく二分できた。平成19年の厚生労働省母子保健課の調査²⁾によると、保育計画を食育の視点を含めて作成していると答えた園が73.5%あった事に加え、その後の平成20年3月保育所保育指針の改訂により、保育の一環として食育に取り組むべき事が明示されたことにより、日常的な取り組みも増えている事が推察される。また、解決策を尋ねたところ、まず自分たちで解決を試みてみようという意見が多かったことから、それぞれの園での自主的な取り組みが推進できることが期待できる。そのため、今後、行政や大学などの学外機関が提供する幼稚園や保育所への支援としては、働きかけてもなかなか反応してくれない保護者への対応や、園内での円滑なコミュニケーションの方法の提供が必要ではないかと考えた。

園で考えている食育の目的は、栽培活動を通じた感性の醸成、クッキングや食べ方指導を通じた技術支援、食事をおいしく楽しくという環境面が多くあげられていたが、生涯生活習慣病にならずに健康的な食習慣の基礎を身につけるといった意識は、あまり明確になっていないようであった。このことは、食育が広い概念であり、食に関する事がすべて食育に通じるために生じていると考えられるので、時々「何のため

に」「何を指して」食育を実施するのか、関係者で話し合う場の設定が重要であると考えた。

平成19年の厚生労働省母子保健課の調査²⁾では、地域に、食育の取組を伝え、理解・協力を求めていると答えたが園が36.5%にとどまっていた事から、今後の課題の1つとして地域連携が挙げられる。本調査結果において、困っている事の中に「保護者との連携」は多く挙げられたが、地域との連携がなかったことから、地域との連携の必要性や方法について情報提供する必要があるのではないかと考える。幼児の食教育は園内で完結することではなく、家庭はもちろんのこと地域の文化、経済、政治の影響を受ける事から、それぞれの園の事情に応じた食育を展開するために行政や企業、JAなどの組織、さらにNPOなどの第3セクターをもまきこんだ地域ぐるみの食育推進活動に発展することが望ましいと考える。

5. 参考文献

1) http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/ikuji_kyoiku/shokuiku/topics19.html

2) 厚生労働省母子保健課、保育所における食育の計画づくりの全国調査結果、保育所における食育の計画づくりガイド、p. 34、2008